



スポーツ ひろしま

第 90 号

平成20年(2008年)6月30日

発行 (財)広島県体育協会

〒730-0011 広島市中区基町4番1号

県立総合体育館内

TEL (082) 221-4600

FAX (082) 222-8040

E-mail:taikyo@orange.ocn.ne.jp

元気なひろしまっ子大集合！

「スポーツフェスタ2008」開催 We Love Sports ひろしま



加藤義明会長の開会あいさつ



佐々岡真司さんによるちびっ子野球教室



参加者全員による準備体操

今年で9回目となる「スポーツフェスタ2008」を6月7日(土)に広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)で盛大に開催しました。約1400人が参加し、午前中は新体力テストチャレンジ大会、午後からはチャレンジスポーツ教室やゲームなどがあり、一生懸命にチャレンジする姿や、トップスひろしまの選手達の指導に目を輝かせている姿、そして、たくさんの笑顔がありました。(詳細は4~5頁に掲載)

新副会長就任ご挨拶



藤井 浩 副会長
中国電力(株) 取締役副社長



黒沢 幸治 副会長
マツダ(株) 常務執行役員



鶴 衛 副会長
学校法人鶴学園 理事長・総長

皆さんご存知の通り、およそ1ヵ月後に四年に一度のスポーツの祭典オリンピックが四川地震を乗り越え北京で開催されます。参加する日本選手、中でも広島県関係選手諸氏を大いに応援したい。

活躍も当然期待しますが、オリンピックを頂点とする各種世界大会等への出場は、それだけで賞賛に値する素晴らしい事であると思います。

そこに到達するまでには、凡人の想像をはるかに超える厳しい練習、ひたむきな努力、そしてそれを支える熱心な指導者の存在や周囲の暖かいサポートなど幾つもの要因成果の積み重ねが必要でしょう。

まずは青少年が様々なスポーツに興味を持ち、参加しやすく持続できる環境整備、続いて欠く事のできない育成・指導等多くの人々の地道な熱意協力。

このたび、本協会に参加させて頂くことになりました、これまで諸先輩が続けてこられた環境作りの一端に、微力ながら協力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

広島に元気を

私は、中国実業団陸上競技連盟や、サンフレッチェ広島で役員をしている関係から、各地での大会への参加や、試合を観戦・応援する機会が数多くあり、選手の皆さんの活躍に接する度に元気と感動をいただいております。

広島県は、スポーツ県として全国大会では常に上位に名を連ねてきましたし、また、優秀な選手や指導者を輩出しておりましたが、最近では、必ずしも思うような結果が出でないと伺っており、残念に思っております。

本年は、北京オリンピックが開催されますが、日本選手の活躍と合わせ、広島県出身選手の活躍も大いに期待しているところです。県出身者の活躍は、私たちの誇りであり、夢と感動を与えていただくとともに、また、数多くの若人や未来を担う子供たちのスポーツ心を醸成し、多くの若者や子供たちがスポーツに取り組むきっかけとなり、広島県を、否、日本を代表する選手が育ってきてくれることを期待しているところです。

私は、当協会の目標である、国民体育大会の8位以内入賞を目指し、広島県スポーツの発展に微力ながら尽力していく所存でございます。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申しあげます。

オリジナルな強化策を

広島県は、オリンピックで日本人初の金メダリストとなられた織田幹雄選手をはじめ多くの名選手を輩出し、「スポーツ王国」として全国から認められています。これは、瀬戸内の恵まれた気候条件を背景に、選手個人の努力と優れた指導者、関係者が力を合わせてきた賜物であります。

その後「スポーツ王国」の伝統は、平成6年の「アジア競技大会」、平成8年の「ひろしま国体」および「おりづる大会」開催によって大きな花となりました。しかし残念ながら、昨年の秋田県で開催された国体では、男女総合18位という成績に終わりました。今後、常に総合8位以内を達成するためには、各年齢層の強化とともに、ジュニア育成が欠かせません。しかも、他県にはないオリジナルな強化策を創る必要があると感じています。

この度、県体協の副会長とともにスポーツ少年団本部長の大役を仰せつかりました。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

暮らしまるごと 包む、広げる！

家のことから、街のことまで。

あなたの暮らしに
中電工
CHUDENKO

工事のご用命・お問い合わせは
0120-060-433
受付時間：平日8:30～17:30（中国5県全域）
<http://www.chudenko.co.jp>



広島統括支社 広島西部支社 広島中部支社 広島東部支社 三次支社 岡山統括支社 津山支社 倉敷支社 山口統括支社 山口東部支社 山口西部支社 島根統括支社 出雲支社 浜田支社 鳥取統括支社 米子支社

平成20年度第1回理事会・評議員会

～平成19年度事業報告・決算を承認～

平成20年度第1回となる理事会・評議員会を5月30日、ANAクラウンプラザホテル広島で開催した。理事34名(うち委任11名)、評議員72名(うち委任40名)が参加、平成19年度事業報告、決算を原案どおり承認した。



平成20・21年度役員 左から久保田専務理事、鶴副会長、加藤会長、田村副会長、黒沢副会長、藤井副会長

平成19年度事業報告

【総務委員会】

12月1日にリーガロイヤルホテル広島において本会体育賞の表彰式と本会関係者で平成19年度の叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受賞者の祝賀会を開催した。

【企画委員会】

国体広島県選手団の支援では、国体の本県選手団の士気を高めるために、選手団に支援グッズを配布した。また、本大会においては県本部を設置し、強化委員会とともに応援激励計画など総合入賞に向けての活動を支援した。「We Love Sports ひろしま～スポーツフェスタ2007～」を開催し、トップス広島の選手・指導者と子ども達が交流する場を提供するなど、「見るスポーツ、するスポーツ」が同時に体験できるイベントとして1,500人の参加者を得て開催した。

【広報委員会】

広島スポーツ年鑑をはじめ、広報誌「スポーツひろしま」などを例年どおり発刊した。

【強化委員会】

ジュニア選手強化事業では、各競技団体が実施する事業に補助金を交付し、事業を実施した。競技力向上重点クラブ指定事業では、全国での活躍が期待されるクラブに対してトレーナーの巡回指導及び指導者の短期県外研修事業を実施した。次期国体候補選手等育成強化事業では、新たにトップアスリート育成事業として1泊2日の合同合宿を実施し、競技団体単独の中学生・高校生合同合宿も20競技で実施した。国体選手強化事業では、国体常時入賞に向けた強化事業を実施した。国体関係については、中国ブロック大会・国体へ選手団を派遣した。第62回国体の成績は、天皇杯第18位、皇后杯第19位。

【スポーツ医・科学委員会】

国体候補選手等のメディカルチェックを実施した。中国ブロック大会及び国体へスポーツドクター、トレーナーを帯同派遣して選手をサポートし、成績の向上に努めた。アンチ・ドーピング教育・啓発事業として、指導者や選手・監督を対象とした研修会を開催した。

【指導者養成委員会】

小・中・高等学校及びスポーツ少年団の指導者連絡協議会を開催するとともに中・高指導者の合同研修会を開催した。スポーツ指導者研修会では、バレーボールの矢野廣美さん、テレビ朝日の宮嶋泰子さん、セルジオ越後さんによる講演を行った。指導者短期派遣事業として、全国高校総体などに72人を派遣した。

【普及振興委員会】

地域加盟団体連絡会議は市町体育協会の会長、役員により、総合型地域スポーツクラブへの取り組みなどについて協議した。また、総合型地域スポーツクラブの育成推進を図るため、育成委員会の開催、育成指定クラブ連絡協議会を開催するとともに、啓発研修会を実施した。第32回広島県民体育大会は、スポーツ少年団の部として9競技4500人、一般の部として10競技2500人が参加した。

【広島県スポーツ少年団】

ドイツとの青少年スポーツ交流をはじめ、全国・中国ブロック各交流大会への派遣ならびに顕彰事業を実施した。また、広島国際会議場で行われた広島県スポーツ少年団指導者研修大会では、250人の参加者を得て、日本体育協会事務局次長の古賀香正さんなどの講演を行った。

平成19年度決算

総額3億8千263万円

～ 一般会計3億3千321万2千円

～ 特別会計 4千941万8千円

スポーツフェスタ2008

6月7日(土) 一足早く広島は元気な子どもたちの力が集結!!

オリジナルピックを
盛り上げよう!



佐々岡真司さん

9回目を数える「スポーツフェスタ2008」が、今年も、熱く広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）で開催されました。ほどよい気温（少し暑い）の中、9時30分の受付開始前にはもう、多くの人たちがロビーの外に集まってくれていました。今年は昨年と比べちょっと少なめ、それでも1400人の参加者があり、将来のアスリートたちがアリーナに詰め掛けてくれました。毎年思うことですが、朝早くから子どもたちを引率してきてくださる保護者の皆さん、本当にお疲れ様です。そして、ありがとうございます。でも、お父さんお母さんも、トップ選手目当ても多かったですかね。

さてさて、例年どおり、トップスの選手の皆さんも早くから会場入りしてくれ、開始前からサイン攻勢も見られました。今年のゲストは、100勝100セーブの佐々岡真司さん。華やかな現役生活は終えられたものの、それはついこの前のこと。現役時代とは少しだけ重くなられた感があるものの、まだまだ子どもたちに負けるはずもないでしょう。

さて、恒例の地元民放各社の若手アナウンサー4名がステージ袖から飛び出して、いよいよスタートです。財団法人広島県体育協会



サンフレッチェ広島



JTサンダースOBとマツダバレーボールチーム



ワクナガレオリック



NTT西日本広島ソフトテニスクラブ

走のコースを2倍の4コースにしたものの、どのコーナーも長い列ができました。他のコーナーでは2回の測定を1回に変更するなど、ちょっと迷惑をかけましたが、みんなよくチャレンジしてくれました。今年も人気の反復横とびでは、高記録を出す子どもたちも多い中、佐々岡さんもプロの意地か、やはり並外れた体力を証明してくださいました。また、50m走後のコメントは、謙虚さがじみ出ているように思います。なかなか絵になりにくい握力テストでも、いざ計測器を前にすると、みんな真剣です。やっぱりスポーツはいいよね。

お昼の休憩時間が終わると、待ちに待ったスポーツ教室です。去年は打者野村さん、今年は投手佐々岡さんの野球教室です。視点も異なることは思いますが、基本は同じ。真剣なまなざしの子どもたちと、同じ人数くらいの大人たちが取り囲みます。佐々岡さんが子どもたちに問いかれます。野球の基本って何だ。なんだろう。



コカ・コーラウエスト
レッズスパークスホッケー部



広島ガスバドミントン部



広島メイプルレックス

キヤッチボール。投げて捕る。捕って投げる。当たり前だけすっごく大事。一人ひとり全員とキヤッチボールをしてくださいました。投げ方のいい子には、いいぞ。おっ!いいねえ。と。その一言が子どもにとってはものすごい励みになります。佐々岡さんに伺いました。プロですから一人ひとりをすぐに見抜かれます。肩の使い方。持って生まれたセンス。でも、努力次第で大きくなれる。だれにでも可能性はあると。そして、これからも子どもたちのために協力を惜しまないと言っていただきました。さらに、広島のみんなは恵まれてるねと。野球、サッカー、バレー、ハンドボール、バドミントン、陸上、ソフトテニス、ホッケーなどなどあらゆるスポーツと身近に接するチャンスがある。こんなこと他県にはないよ。

我々も、このスポーツフェスタを大切に、大事にしていかないといけません。もうひとつ。佐々岡さんにサインをいただきました。名前の横に書かれたことは、「感謝」。これだけの大投手が「感謝」と。感激しました。この心を子どもたちには伝えないといけない。解らせないといけない。

今年も屋外では、伝承あそびのコーナーを設置いただきました。そこに立ち寄ると、独楽やけん玉、セパタクロのボール作りなど、真剣にチャレンジする子どもたちも多かった。上手い、器用な子はいるもんだ。

フェスタも終盤。恒例の、ゲスト・トップスとのソフトバレー、ハンドボール、今年の新ネタ、ドッヂビーの交流戦です。みんな真剣になるところが、やはりスポーツの醍醐味。そして最後は、これも恒例となりました子どもたちとゲスト、トップスのみんなによるリレー大会。予選、すぐ決勝とハードな中、NTT西日本広島ソフトテニスクラブチームの速さにはびっくり。とても盛り上がったレースとなりました。

今年も選手のサインを求める子どもたち、親たちがたくさんいましたが、佐々岡さんはじめ選手の皆さんには実に快く応じてください

ました。ありがとうございました。トップスの皆さんにはサイン攻勢にも大分慣れた感じ。子どもたちにとっても、トップスの選手にとっても、モチベーションの上がる瞬間ではないかなあ。いい企画だ。広島は恵まれているなあ。最後まで残ってくれた子どもたちとアスリートの皆さんにいつもながら感謝。来年多くの参加をお願いします。今年も大変な盛り上がり。広島からもオリンピック出場選手がいます。将来のオリンピック選手、プロで活躍できる選手を目指す子どもたちに囲まれ、とても楽しかったスポーツフェスタ2008はこうして幕を閉じました。

(本会のホームページにも「スポーツフェスタ2008」のレポートと写真を掲載していますのでご覧ください)



ハンドボール教室



バレー、ボール教室



バドミントン教室



ランニング教室



ちびっ子野球教室



サインする選手たち

おかげさまで 130周年

地域の皆さんと共に歩んで130年。
日本一お客様を大切にする銀行を目指し、
役職員一同さらなる努力を続けてまいります。
これからも《ひろぎん》をよろしくお願い申し上げます。

《ひろぎん》ホームページ <http://www.hirogin.co.jp/>



広島銀行

「スーパージュニア選手育成プログラム」 (財)広島県体育協会の新規事業がスタート



開会行事にあたり、挨拶する加藤義明会長

(財)広島県体育協会の新規事業となる「スーパージュニア選手育成プログラム」への参加者を決定する、トライアルとしての適性テストを、平成20年6月7日(土)に広島県立総合体育館小アリーナで、6月14日(土)に福山平成大学で行いました。このプログラムは、小学生5・6年生の競技志向の強い子ども達を対象に、スポーツ医・科学的な測定や各種スポーツの



「立幅とび」

体験プログラムを実施することにより、中学校入学時に個人の能力・適性に応じた自分にあったスポーツを自ら選択することが出来るよう指導・助言を行います。また、保護者には子どものスポーツ活動を家庭で支援するために役立つサポートプログラムを提供します。

6月7日の県立総合体育館では、適性テストに先立ち、参加者の小学生5・6年生99名とその保護者に、(財)広島県体育協会 加藤義明会長が「今日のトライアルに参加してくれた皆さん、将来トップアスリートとして活躍したい、あるいは保護者の皆さん方がトップアスリートに育ってほしいという夢や希望を持って参加されていると思います。私も同じように、皆さん

の中から国民体育大

会やいろいろな大会に広島を代表して参加してくれるような選手が一人でも多く育ってほしいと願っています。そして、その中からさらに日本を代表する選手が出てくれることにも期待しています。皆さん、頑張ってください。」と開会の挨拶をされた。福山平成大学では29名の小学生の参加者があり、その保護者が見守られました。

強化委員会の武鑓委員長やスポーツ医・科学委員会の大成・坂手副委員長、各委員が見守る中、そして、保護者の方々の熱いまなざし

の中、準備運動を終え、いよいよ適性テストの開始です。テストの種目は、7種目。「立幅とび」は、主として瞬発力をみるもので、筋力、平衡性、柔軟性、適応性も含まれ、2回とび、記録のよい方をとります。「上体おこし」は、主として腹筋の動的持久力、及び筋力などをみるもので、30秒間での回数を記録します。「腕立伏臥腕屈伸」は、主として腕の筋肉の動的持久力をみるもので軀幹の静的持久力テストも含まれ、屈伸した回数を記録します。「時間往復走」は、主として全身の敏捷性をみるもので、瞬発力、平衡性、柔軟性、協応性も含まれ、5mの平行線の外側50cmのタッチラインに触れ、引き返すもので、15秒間に走った距離を測りますが、2回実施してよい方の記



「腕立伏臥腕屈伸」



「上体おこし」

録をとります。「5分間走」は、主として全身持久力のテストです。5分間に走った距離を測り、記録とします。「棒反応時間」は、棒の落下を利用して敏捷性を計るもので、5回実施し、中3回の平均とします。「グリッドエクササイズ」は、集中力を測るもので、100までの0から99までの数字を2分間で探すものです。参加者は6組に分かれて、それぞれの種目に順番にチャレンジし、最後に、1組ごとに「5分間走」にチャレンジしました。怪我をおして参加した小学生や「5分間走」を頑張りすぎて途中棄権した小学生もいましたが、どの小学生も真剣な表情で、全力で各種目にチャレンジしていました。「立幅とび」では、200cm以上、「上体おこし」では、30回以上、「腕立伏臥腕屈伸」では50回前後、「時



「時間往復走」

間往復走」は45回以上、「5分間走」では、1300m以上などの好記録を数名が出しました。結果はどうであれ、自分で行動し、このプログラムに参加して、全力でチャレンジしたということが大切なことだと思います。



「グリッドエクササイズ」

このトライアルを通過できた参加者は、各プログラムとして、7月26日(土)10時からコカ・コーラウエスト広島総合グランドで陸上競技とサッカー。8月28日(木)10時から広島県立総合体育館でハンドボールとユニホッケー。9月21日(日)10時から広島県立総合体育館でソフトテニス・バドミントン。10月19日(日)10時から猫田記念体育館・フジタドルフィンクラブで、バレーボール・水泳・水球の各競技をトップス広島(サンフレッチェ広島、JTサンダーズ、ワクナガレオリック、広島メイプルレッズ、広島ガスバドミントン部、NTT西日本広島ソフトテニスクラブ、中国電力陸上競技部、コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部)、(財)広島陸上競技協会、

(財)広島県水泳連盟の協力により、競技選手や指導者から直接指導を受け、それぞれ体験します。年末に、もう一度ファイナルトライアルを受け、始めのトライアルとの結果と比較します。そして、自分がどの競技に合っている、どの競技が楽し



「撃反応時間」

かったかという本人の思いや各プログラムでの様子、ファイナルトライアルの結果などを考慮して、参加者一人ひとりに、どの競技があつて いるのかを助言します。また、中学校の運動部や地域のスポーツクラブの情報提供なども 予定しており、広島県小学生体育連盟や広 島県中学校体育連盟、競技団体などとの連携をさらに強化します。

このプログラムはスタートしたばかりです。関係者の皆さんのご協力よろしくお願ひします。



「5分間走」

長沼 健 日本体協副会長、日本サッカー協会最高顧問が死去

日本体協副会長で、日本サッカー協会最高顧問の長沼健さんが6月2日、肺炎のため東京都内の病院で亡くなった。77歳。広島市中区出身。本会の会賓でもあり、日本の戦後スポーツ界に大きな足跡を残したサッカーマンだった。



メキシコオリンピック選手村の前で(後列右が長沼健監督)



冷静でいて、熱いハート

私は1990年代に中国新聞東京支社に勤務した。スポーツ記者としてしばしば接した「健さん」こと長沼さんは、冷静だが熱いハートの持ち主であった。

なぜか、苦渋の表情を浮かべたシーンばかりが思い浮かぶ。

サッカーリーグ発足に関わるプロ化検討委員長の時だ。前身の日本リーグで1、2部を行き来していたマツダのプロ参入の態度が煮え切らない。「どうしたんだ、マツダは。広島のサッカーが発展せんていいのか」。広島サッカー黄金期を築いただけに人一倍、プロ入りに気をもんでいた。

日本体協常務理事だった93年3月、当時の青木半治会長が突然、高齢を理由に辞任した。歩調を合わせて堤義明副会長も退いた。機能不全となった体協は、長沼さんを会長代行に選出した。高原須美子元経済企画庁長官が後任会長に決まるまで、4ヶ月の間人選に奔走したのは長沼さんだった。「ガラス張りの人事を」と汗をぬぐう姿が印象的だった。

そして、またしても表情が曇ったのは96年の暮れだった。2002年日韓ワールドカップ(W杯)の国内会場地から広島市は選に漏れた。日本サッカー協会会长として、自身の原点ともいいくべき「サッカー王国広島」がよもや落選しようとは思ってもみなかつたはずだ。

広島ビッグアーチに屋根を架けなければ会場地の資格なしとするサッカー界と、「屋根架けは条件ではないはず」という広島市の認識が、重なり合うことはなかった。「会場地失格」を市に言い渡した長沼さんは心底つらそうだった。

栄光に彩られたサッカー人生

スポーツに半生をささげた人生だった。実兄博氏(元県サッカー協会副会長)の影響を受け、旧制広島高師付属中(現広島大付属高)でサッカーに熱中した。中学3年の夏に被爆、疎開先の広島市安佐郡(現安佐南区)で「黒い雨」を浴びている。それでも、付属でサッカーに明け暮れた。

選手、指導者としてのサッカーマン長沼さんは、まばゆいばかりの栄光に彩られている。旧制中学5年の47年12月、付属は全国中学大会を制覇した。健さんはFWの一員としてゴールに突進、決勝(対尼崎中)は7-1で大勝する。新制高校(広島高師付属高)となった翌年の福岡国体も制した。関学大に進み50年、全関学は天皇杯を獲得した。

選手としての勲章は54年3月の第5回W杯スイス大会の極東地区予選、対韓国戦で決めた1本のシュートである。1-5で敗れたが、今に至るもW杯予選の日本第1号ゴールとして記録に刻まれている。

関学大を卒業後、中大を経て古河電工入り。56年にはメルボルン五輪日本代表となった。やがて指導者の道を歩み、64年東京五輪、68年メキシコ五輪の指揮を執った。日本代表監督就任は62年、33歳の若さだった。

白眉はメキシコの銅メダル獲得だろう。バランス感覚に優れ、チームワークを尊重した。杉山隆一、釜本邦茂、小城得達らの猛者を操り、ドイツ人コーチのクラマー氏の協力を得て五輪3位の金字塔を打ち立てた。

長沼さんの最大の功績は、96年5月のW杯招致決定と言つていい。土壇場で日韓共催で折り合つたが、日本の単独開催に固執していれば、実現はかなわなかつたろう。日本サッカー界のトップとして、冷静沈着な判断を下したのだった。

晩年は障害者サッカーやスポーツマスターズ、日本スポーツ少年団などの代表に就いた。文字通り幅広く、スポーツ界のリーダーにふさわしい活動ぶりだった。心よりご冥福をお祈りします。



東京オリンピック時(左から3番目が長沼健監督)

(中国新聞社運動部長 渡辺勇一)

「ドーピングの話題あれこれ」①

(財)広島県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長 佐々木英夫

広島県体協では、国体の結団式でドーピングに対する意識調査を実施していますが広島県の代表選手はアンチドーピングの意識が高いことが示されており、嬉しいところです。しかし、最近のスポーツ界では、国内ではプロ野球のゴンザレス選手の興奮剤使用問題、海外では米国陸上競技のマリオン・ジョーンズ選手の筋肉増強剤使用とドーピングに関する話題は事欠きません。皆さんはこれを対岸の火事で自分には関係ないと決め付けてはいませんか？

近年スポーツに係っている以上、プロ、アマを問わずドーピングは避けて通れない問題になってきています。すでに国民体育大会ではドーピング・コントロール(ドーピング検査)が行われていますし、近い時期にはインターハイなどでも実施されることが想定されます。自分はドーピングとは関係ない、潔白であるということを証明しなくてはいけない時代に入っています。ここでは現在のドーピングをめぐる状況とともに、うっかりを避けてクリーンな競技生活をおくるために知っておきたいことを何回かにわけてお知らせしたいと思います。

なぜこのようにドーピング・コントロールが厳しくなってきたのでしょうか？それは皆さんも想像されるように、一部(と信じたいのですが)のトップアスリートで薬物による不正な競技力の向上が図られている(これこそドーピング行為ですが)からなのです。ソウルオリンピックでベン・ジョンソンが男性ホルモンを筋肉増強の目的で使用したように、もともとは病気の治療のための薬物を競技力を上げる目的で乱用するのがもっぱらでした。しかし、最近ではデザイナー・ドラッグのように、わざわざドーピングの目的で新たな薬物を合成して発見されにくくするようなことも行われています。このデザイナー・ドラッグで有名なのがBALCO社のTHG(テトラハイドロゲストリノン)でマリオン・ジョーンズが使っていたとされるものです。

世界アンチドーピング機構(WADA)の2005年の統計では、世界中で年間約14万件のドーピング検査が行われ3000件の陽性があった、すなわち陽性率は2.1%と報告されています。その中で最も多く使用されているのは、TDHのような蛋白同化ホルモンいわゆる筋肉増強剤で、違反の43.4%を占めています。筋肉量を増加させることはパワー、スピードをはじめとするパフォーマンスの向上に直接結びつくので悪用されるわけです。その次に多く使用されているのが、気管支喘息の治療薬であるベータ刺激薬で全体の14.5%です。この薬はいわゆる興奮剤としての作用もありますが、筋肉増強作用を期待して悪用されているようです。喘息のあるアスリートではこの種の薬を治療のために使わざるを得ないこともありますが、それには許可を得る必要があります。これをTUE(Therapeutic Use Exemption治療目的使用の適用措置)といいますがこれに関しては次回詳しく述べることにします。これらの2種類の薬物について興奮剤(11.8%)、大麻(11.7%)、副腎皮質ホルモン(7.6%)、利尿剤などの隠蔽剤(57%)が続いている。

ドーピング違反とは、選手の身体組織または体液からこれらの薬物が検出されること、それを保持すること等が違反になります。従来は競技種目によってドーピングコントロールの方法や禁止物質に差があったのをなくし、現在はWADAによって全世界で同一の基準でコントロールされています。同時に日本アンチドーピング機構(JADA)ができ、日本国内のドーピングコントロールはJADAが主体となって行われています。日本はまだまだドーピングコントロール数が少ないといわれており、クリーンであることを証明する意味でもドーピングコントロール数は増えていくことが予想されています。

いいことプラス
Energia

「今」は、ちゃんと 未来につながっています。

今も、そして未来も、地球にやさしく暮らしたい。
そのために、私たち中国電力は、電気をつくる時、
CO₂を出さない原子力発電や新エネルギーの開発など
CO₂排出量の削減に向けた取り組みを進めています。

www.energia.co.jp

~~ひろしまのスポーツ取材日記~~

広島テレビ



6月6日(金) 尾道・しまなみ球場
広島一オリックス戦
試合直前の記者席で準備する
大瀧(左) と 元気丸の森アナ(右)

様々な番組のディレクターを担当してきましたが、4月からスポーツも担当させていただくようになりました。レギュラーでは「スポーツ元気丸」のスタッフとして番組制作に関わっていますが、スポーツに熱い視聴者の皆さんに対してハンパな仕事はできないなど緊張感のある毎日です。野球のスコアも見たこともなく、何かの暗号のようで苦労しましたが、何とか書けるようになりました。

日々取材に出かけるカープやサンフレッチェの試合では、長い取材の積み重ねが必要だと感じる反面、その瞬間のプレーや球場の空気をどのように伝えるか考えさせられます。試合後に新聞記者の皆さんと並んで選手の談話を聞く自分を振り返って「記者みたいだな」と少し恥ずかしさを感じながらも、選手と近くで接することができるのもこの仕事の特権と思って楽しんでいます。

バレーや陸上など他の競技の取材にも出させてもらっていますが、行く先々で「いつも元気丸見てます!」と応援してくださる方に必ずと言っていいほど会います。そんな皆さんのために、スポーツのいい瞬間を伝えなければいけないと改めて感じた2ヶ月です。

広島テレビ 報道制作局 制作・スポーツ部 大瀧 巍弘

「こんにちは! スポットTV、バーゲル・ルミです。」

毎週土曜日に放送している『スポットTV』でのこの挨拶が、最近ようやく自分のものとして定着してきました。今年1月に番組がスタートしたのと同時に、私は初めてスポーツという分野に足を踏み入れました。それまでアマチュアスポーツの体当たり(体験)取材をする機会は何度かあったのですが、プロの世界というのは私にとってあまりに遠くかけ離れたものに感じられていました。そこで時間の許す限りなるべく球場やピッチ、練習場に足を運び、選手の生の姿をしっかりと見ようと心に決め、努力してきました。と言っても、他のスポーツ記者さんたちに比べれば自分はまだまだ足元にも及ばない取材量なのですが…(汗)。

先日、カープのルイス投手にインタビューさせていただきました。私のつたない英語の質問にも快く答えてくださいり、その言葉からは精神的な余裕と、様々な経験を乗り越えてきた重みが感じられました。マウンドに上がれば…“I just try to do my best(ベストを尽くすようにするだけ。)”私もいつかさらっとそのような一言が言えるよう、日々学習し、成長していきたいです。

テレビ新広島 アナウンス部 バーゲル・ルミ

テレビ新広島



広島ホームテレビ



「金メダルに最も近い男」

あと1ヶ月余りでいよいよ北京オリンピックが開催されます。弊社スポーツ番組「北斗晶の鬼嫁運動記者倶楽部」内でも、数々の広島出身代表選手を紹介しておりますが、その中でも特に金メダルに近い男が柔道男子60キロ級代表・平岡拓晃選手ではないでしょうか。広島市宇品出身の平岡選手は五輪3連覇の野村忠弘選手を押しのけ初の代表入り。

持ち味はトップクラスのスピードと相手のスタイルに合わせられる柔軟性、そして泰然自若の精神力だと思います。鬼嫁でも先日特集を放送し、家族に支えられた様子をお伝えましたが、感動秘話が一転、「おもしろ家族」に変貌を遂げたのはご覧になられた方ならお分かりでしょう。平岡選手の好きなタイプは「スザンヌ」。ご両親もすっかりその気?になり、お父さんは「カタカナに名前を変えるならジョージ」とノリノリでした。何と言ってもオリンピック選手ですから、何が起るか分りません。そう、金メダルを獲ってしまえば

一気に国民の注目度は高まり、マスコミからも引っ張りだこ、露出も増えるでしょう。そうなれば、スザンヌさんの目にもとまり、もしかしたらロマンスに発展…?なんてちょっと見てみたい気もしますが、平岡選手は相変わらずの落ち着きぶり。「例えスザンヌがカタカナだからと言っても、僕は流されませんから。俺は俺です。」この落ち着きさえあれば、夢舞台でも力を發揮してくれるでしょう。目指すのは金メダル、そして私生活でも金メダル獲っちゃうかも。そんな期待をもって、8/9はテレビの前で応援しましょうね。

広島ホームテレビ 報道局スポーツ部 下門 晋



中国新聞

「気分は最高」「仲間の分も勝ちたかった」「最初から狙っていた」—。高校生たちの飾らない言葉が心地よい。5月から県総体が始まった。夏の全国高校総体行きの切符を求めて高校生選手が奮闘している。「選手としての最後の夏」または「先輩とプレーできる最後の夏」。全力で駆け抜けている。

インターハイは約30競技が行われる。柔道やサッカーのように目の前の相手と戦う競技もあれば、陸上や弓道のように自分と戦う競技もある。競技によって戦い方はそれぞれだが、どの競技にも当てはまることがある。それは試合会場には弾ける笑顔とあふれる涙が交錯することだ。

勝って喜ぶ選手がいるということは、負けて泣く選手が必ずいる。本当に最高の笑顔を見せることができるのは、1人または1チームだけ。笑顔より涙の物語の方がはるかに多いのだ。その涙はきっと、生涯忘れることのできない涙になるだろう。

そういった選手たちの思いも胸に、切符を手にした選手たちは7月末からのインターハイに臨む。全国の強豪が相手で勝つことは容易ではないだろう。でもどうせなら、晴れ舞台で最高の笑顔を見せてほしい。そしてあわよくば、うれし涙でくしゃくしゃになった顔を取材したいと願っている。

中国新聞社 運動部 友岡 真彦

ちょっと前になりますが、北京へ行ってきました。

北京オリンピックではジャパン・コンソーシアムのディレクターとして競技中継を担当する予定になっています。4月20日に行われた北京マラソンに合わせて、競技会場の下見を行いました。

ジャパン・コンソーシアム(略してJC)とは、直訳すると「日本共同企業体」といったところでしょうか?オリンピックではNHKと民放各社が共同で放送権を獲得し、競技中継も共同で行います。

オリンピックの競技映像はBOB(Beijing Olympic Broadcasting／北京オリンピック放送機構)という組織が、全世界に配信する国際信号を制作します。国際信号は各国に配信されるため、注目選手でない限り、日本選手を特別に撮影することはありません。また、音声も場内音だけです。その国際信号をベースにJCが日本語で実況を行い、競技によっては日本選手を撮影する独自のカメラを加えて日本向けの映像音声を制作します。それがNHKと民放各社で放送されます。JCはNHKと民放の共同の組織のため、スタッフも混成チームです。ですから、オリンピックではNHKが放送しているのにアナウンサーが民放の人だったり、民放でNHKのアナウンサーが実況していたりするわけです。今回の下見も、NHKだけでなく民放各社のディレクターや技術スタッフと共にで行いました。

オリンピックを目前に、街はすごく活気があります。おそらく、44年前の東京・20年前のソウルもこんな感じだったのでしょうか。メインスタジアム(通称・鳥の巣)の周りはまだ工事でしたが、記念写真を撮る人たちがたくさんいました。四川大地震の影響が心配ですが、本番でどこまでいいになるか楽しみです。

オリンピックにはマラソンの尾方選手・佐藤選手、卓球の福岡選手、柔道の平岡選手、水泳の金藤選手など、広島から多くの選手が参加します。NHKでは7月25日に「北京オリンピック・ふるさと選手たちの挑戦!」と題して、中国地方ゆかりの選手やオリンピックの見所を紹介する番組を放送する予定です。日本選手が、北京でどんな活躍を見てくれるか、オリンピック放送をお楽しみに。

NHK広島放送局 報道・スポーツ 塩田 龍介



中国放送

“ホッケー中継に挑戦”。これは、私にとってのビッグプロジェクトでした。5月4日といえばRCCに入社以来、フラワーフェスティバルにカープ中継と相場が決まっていましたが、今年は様子が一変。ゴールデンウイークといえば、ホッケー日本リーグ開幕。赤といえばレッドスパークスでした。

思えば3月のことでした。コカコーラウエストレッズパークススタジアムに取材に訪れた時、チームの田村洋二GMから手渡されたのは「ホッケー教本」なる一冊でした。読み進めるとビックリ。「オフサイドはない」。「ゴール前のサークルの中から打たないとシュートとはならない」。「スティックは片面しか用いてはならない」。サッカーでもない、ハンドボールとも違う、おまけにホッケー中継というものを見た経験がありませんでした。

窮屈の私を救ってくれたのが、ホッケー関係者のみなさんでした。チームの事で忙しい中、田村GMにルールを教えてもらい、練習場で出たった県ホッケー協会常任理事の藤村利通さんには、いきなり実況練習の解説者役を強引に引き受けさせていただきました。

すばらしいスタジアムが完成し、全日本のヘッドコーチでもある柳承辰新監督を迎えて、レッドスパークスは本気です。そして、ホッケーを広めようと関係者も本気です。そんな方々と本気で触れ合えたゴールデンウイークはかけがえのないものとなりました。

RCC アナウンス室 坂上 俊次

——トップスNEWS トップス広島 ビッグアーチに大集合——



去る6月25日(水)トップス広島のメンバー113名が広島ビッグアーチに集まり、サンフレッ彻広島のJ1復帰に向け、エールを送りました。
サンフレッ彻広島の選手たちもその期待に応え、徳島ヴォルテスに2-1と快勝しました。

—12—



点数を沢山入れてもらって会場を盛り上げてほしいと思います。

JTサンダーズ 加藤選手



いっぱい点数とっても、今日も勝利し、1年でJ1復帰してもらいたいと思います。

広島メイプルレッズ 大前選手

チークを代表して一言



我々もこれからシーズンが始まります。その前のサンフレッ彻の試合なので、今日はぜひ勝っていただきたいです。

ワクナガレオリック 福田選手



私たちの声が選手に届くように、一緒になって応援しましょう。

広島ガスバドミントン部 日野選手



私たちは、いつもプレーする側ですが、今日は皆さんと一緒に一生懸命応援したいと思いますので、よろしくお願いします。

コカ・コーラウエストレッズパークス 中里選手

サポーターと一緒に
“ALL FOR J1”



試合終了後のパフォーマンスでは、横野選手が「トップス広島の皆さんも応援に駆けつけてくれていたので、負けるわけにはいきませんでした」とコメント。

都合により、NTT西日本広島ソフトテニスクラブは試合開始直前からの参加。また、中国電力陸上競技部は合宿中のため参加できませんでしたが、今後も相互応援などの交流活動を続けていく予定です。